



Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会会報

第23号 2009年3月 ネパールの視覚障害者を支える会 (NBSA)

NBSA : <http://NBSA.sakura.ne.jp/>

主内容：ボランティアさんありがとう/ネパール現地活動報告/ NBSA 柏市講演 /カトマンドゥの人気者 Mr. BaBa/
時のネパール/旧正月を祝う/ジヨムソン・トレッキングの魅力/音声パソコンって何？/事務局だより



日本では知られていない行事ですが、NBSAカトマンドゥでは、毎年熱心にサポートしてくれたボランティアさんの労をねぎらいお食事会などを開催しています。昨年はカカニの1泊旅行を行いました。今年は経費を節約しカトマンドゥ市内での公園で、野外ランチを楽しみました。NBSAのボランティアには各自の特技を生かして、様々な分野でボランティアをしていただいています。セットテープ・ライブラリーの朗読ボランティアが一番多く、その中でも小説や詩などを朗読する人はかなりのスキルが必要なので、熟練者をお願いしています。他には、学校の教材や情報関係雑誌などを朗読するボランティアさんは、どちらかという素人レベルです。ネパールではパソコンを持っている人が少ないので、いまだにカセットテープの利用が断然多いのです。また、点字雑誌専門のボランティアもいます。記事の内容ですが、一般的な新聞と様々な障がい者の雑誌から記事を収集します。次に点字タイプと校正という3段階に分かれています。それぞれかなり専門的な技術を要します。最後に忘れてはならないのが、ガイドボランティアです。送迎とイベントの会場係として働いていただき、こうした助っ人ボランティアの登録は40人くらいいます。



写真上：踊るボランティア 写真下：ネパール料理のダルバード

(写真撮影と本誌への掲載は本人の許可を得ています)

ネパール現地活動報告

定例活動：

カセットライブラリー事業。小説を中心とした朗読(音訳)CD編集とカセットテープ編集。
11月はネパールの大型連休のダサイン祭があったので、たくさんの方がカセットを借りに来た。人気があったのは、やはり長編小説。

隔月点字雑誌タッチ13号と14号の作成と発送(連休が多かったので、発送が若干遅れた)。

2009年2月よりカトマンドゥ全域、1日14時間の停電が行われているため、すべての作業が大幅に遅れていますし、ユーザーの訪問も減少傾向にあります。

その他の活動

*2008年12月24日：視力に障がいのある児童の親の会、カトマンドゥ、ミーティング開催。カトマンドゥの親の会代表5人、NBSA 役員4名、スタッフ1名が参加。今後の活動と、会の規約について検討を始めた。この会は、カトマンドゥ在住の親を中心に、都市から地方へのサポートを目指している。何しろ、ネパールは都市と地方の格差が18倍だという。これまでPTAなどなかったネパールで、親どうしの会を作るのはなかなか難しい。NBSAが組織作りのノウハウを教えている。

*2008年12月3日：国際障がい者・デー、記念ラリー。ネパール全国障がい者連盟の呼びかけでNBSAも例年通り参加。当事者団体が中心の行事に、障がい者を専門に支援するボランティア団体が参加するので、NBSAは人数こそ少ないが今年も目だっていた。また、街頭でピラ2千枚を配り、視覚障がい者を配慮した交通マナーなどを市民に訴えた。

*2008年12月5日：国際ボランティア・デーの集い。(前ページで紹介)

*2009年1月4日：国際点字の日式典。点字の発明者、ルイ・ブレイル生誕200年を祝う式典がカトマンドゥでも開催。点字の早打ちと正確さを競うコンテスト等が行われた。

*1月10日：親の会全国会議カトマンドゥで開催。会場 KNKカレッジ 参加者 父母17名とNBSA 役員とボランティア8名。ゲストは知的障がい者親の会会長。今年の全国大会は交通の不便に加え経費の節約のため、遠方からの参加者はポカラと新規加入のカブレ郡の親だけを招待した。残りは、カトマンドゥ盆地内の各所から代表者。これまで総合司会をNBSAが行っていたが、今回はカトマンドゥの親の会が独力で行った。議題は視力に障がいをもつ学童の状況報告と分析、親の会の役割とニーズ、新役員の選出と親の会の正式登録(日本のNPOのようなもの)の説明と意見交換など。会議は和やかで楽しく閉幕したが、具体的なアクションプランや財政面で、NBSAは今後も親の会サポートを続ける必要性が感じられた。報告：プララダ・タバ

*2月14日：日本・ネパール学生の集い

日本福祉大学のスタディーツアーで、9名の学生と先生が事務所を訪問し、文化交流会を行いました。初めは皆さん照れていたのですが、午後の軽食が出ると和やかなムードになり、最後はネパールの学生による民謡の披露で、かなり盛り上がりました。内輪話ですが、実は人集めにいつも苦労しています。呼んだ人がドタキャンしたり、呼ばれていない人が来たりするのです。この日はボランティアを入れると、40人以上の人が参加しました。その後、私たちは恒例のユーザーによる聴聞会を開きました。これは、日ごろの活動を利用者に評価してもらうためです。点字刊行誌にはコメントが無かったのですが、カセットテープライブラリー利用者の中で激しく討論

されました。大学生の間で教科書の音読にもっと力を入れてほしい、という意見。学校へ行っていない人、もう学校を卒業した社会人たちはNBSAの従来のスタイル、生涯にわたる娯楽や教養のために、小説などの作成に専念してほしいという意見。結局、結論は出ませんでした。



ネパールの民話 24話英語点字版が増刷され、ネパールの各所に配布されました。ネットニュースで紹介した神戸の点訳グループが、リクエストに答えて英語点字の民話を増刷、送付してくれました。いつもいつも、ありがとうございます。

写真左：点字本を受け取るナムナマチンドラ盲学級の先生

日本での活動報告 - 千葉県柏市での講話サロン

特別イベント 2008年12月23日 ネパールからの報告会

昨年暮れ、千葉県柏において、渥美資子さんの帰国に伴い、ネパールからの報告会を開催しました。今回は、2週間程度しか準備期間が取れない大慌てのイベントとなりましたが、スタッフも入れて42名の方に集まってくれました。パワーポイントを使っての渥美さんの説明と、報告は、現地の障がい者の暮らしをリアルに紹介し、普段日本では知りえない情報に接して、参加者の心を大いに揺さぶったようでした。特に、NBSAの生活自立訓練会の様子。目の不自由な人の髭剃りやアイロンかけには、思わずうーん、と唸った人もいました。また、質疑応答時間では、91歳の元軍医さんのおじいちゃんの質問に会場が大いに盛り上がり、その熱心な質問が更なるネパールへの関心を呼んでいました。「ネパールは昔海だったそうで、アンモナイトが採れるというのは本当か？ネパール人の耳は大きいですか？小さいですか？」という質問に渥美さんは大慌て、「すみません、次回までに研究してみます」でさりげなく危機を突破したようです。

このイベントのきっかけは、「しばらくぶりの帰国だし、もっとこの活動を理解してもらうことが必要だね、どうしたらいい」という渥美さんのメールから始まりました。それは、会員の減少と資金の目減りを憂いての言葉だったのですが、僕はそれに対して良い回答ができませんでした。現地の話の中で、障がい者が作った品物を細々と売っていることを知り、それなら店で預かってもらい、フェアトレードができればいいねという話から、とんとん拍子に今回のイベントへと進んで行きました。今回の催しには、二つの側面があります。

第一に、渥美さんの「ネパールからの報告」という活動報告を通じて、日本人の理解を求める事と、会員拡大そしてイベント収入の道を作ることでした。第二は、会費以外の資金集めると言うことで、現地の障がい者の作った品物を、できるだけ買ってもらう活動をどう広げていけるかということでした。このふたつのことが、今回の催しからのフィードバックされた事柄でした。

2009年2月 千葉県柏市在住 青山 茂

さて、催しの金銭的側面ですが、詳細はNBSAホームページ、活動報告ネットニュース2月号をご覧ください。：<http://NBSA.sakura.ne.jp/>

NBSA 支援グッズが日本でも買えます。可愛い天然石のペンダント・トップやネックレス、ネパールの障がい者の手作りコースターや、貴重な手書きの仏画などもあります。ぜひお立ち寄りください。お店の名は『セレンディビティ』年中無休 午前10時から午後8時まで。電話 04-7140-8933 千葉県柏市松葉町6の10の1 青山第二ビル

カトマンドゥの人気者 ハロー、ミスターBaBa (写真左から2番目)

JICA・シニアボランティアの馬場さんレポート



カトマンドゥを訪れると、まず初めに脅かされるが耳をつんざくクラクション。そして交通マナーの悪さ。それでも馬場さんが着任して、白い手袋の警官が交通違反を厳しくチェックする姿が見られるようになりました。お名前の語呂が良いからでしょうか、ババさんの名前はカトマンドゥっ子の間で有名、そして人気者。そんな馬場さんに警察所内のジェンダーの取り組みについて書いてもらいました。

ネパールの交通警察内におけるジェンダーへの取り組み

Metropolitan Traffic Police Division JICA SV 馬場 喜代志

はじめに：現在、カトマンズ市街地に於いては視覚障がい者に対する道路を安全に歩行するための対策は殆どなされていないのが実状で、交通警察としては今後とも道路管理者に強力に提言し続けていく考えであります。一方、第一線の交通警察官に対しては「ハンディーを持った方々には誘導するなど出来る限り手助けをするよう」に厳しく指導しております。ところで、ジェンダー問題.....ネパールにおける女性の地位向上は、今後ネパールが発展して行く上での重要な柱の一つであります。交通警察においては職場内における男性警察官と婦人警察官の性差による取扱いの差別の解消を積極的に推進しており、以前と比べて次の諸点で、その改善の努力跡が見られますのでご紹介いたします。

具体的な成果 (実施済み)

婦人警察官採用の増加。

4年前には80人だった婦人警察官が、125人に増員されました。

待遇：給料や勤務時間(拘束時間)・支給品などは全て男性警察官と同じ。

主に男性分野であった任務分担への進出。

その他、各種訓練や教養も男性警察官と一緒に同列で受けています。



特筆すべきは、カトマンズ盆地内に25ある交通詰め所の内、交通量の多い重要地域を管轄するタパタリ交通詰め所を26人の婦人警察官だけで任され、その任務を立派に果たしていることです。この交差点は日本の援助で整備されたネパールで最初の信号交差点です。私はこの交差点を更に、ジェンダーの立場からの『婦人の地位向上のモデル職場』にしたいと考え厳しい指導をして自信を付けさせ（やって見せ、やらせて見て、褒めてやり）ました。一方激務に就いている婦人警察官達のために、同交差点横にあって殆ど使われていなかった倉庫を改造し、更衣室兼休憩室を造り待遇改善をしたりしました。これが大好評で、勤務意欲の面でも大きな変化(向上)が見られるようになり、職場が活性化されているところです。(婦人警官がっこいい!馬場さん、頑張ってください)

ネットニュース3月号のよくある質問コーナーで、「点字って万国共通ですか？」について少し触れさせていただきました。今回は、「見えない人がどうやってパソコンを操作するのですか」という質問に、事務局の高橋恵子さんに答えてもらいました。

音声ソフトについて 事務局 高橋恵子

私たち重度視覚障がい者は、パソコンを操作する際、マウスを用いることができません。MS-DOSの時代と同様、OSがWINDOWSになっても、全ての操作を、キーボードを使って行ないます。そのときに不可欠なのが、画面の状態を読み上げる音声ソフトです。カーソルが現在何ページ何行目にあるか、入力した文字列を読み上げ、更に、漢字変換の際には音読みや訓読み、熟語などによって漢字を説明します。たとえば、「ちば」と入力して変換すると、私が使用している音声ソフトは、「漢数字の千、葉緑素の葉(よう)・葉(は)」と読み上げます。文字を見た経験を持つ中途視覚障がい者ならば適切な文字を選ぶことは容易ですが、幼児期に失明し、点字によって教育を受けた者にとっては、パソコンの捜査に加えて、平仮名・片仮名・漢字を適切に用いることが課題です。また、音声ソフト自体が、地名や人名の読みに弱点を持つことも問題です。それでも以前に比べればはるかに聞きやすくなりましたし、これからも改善されることが期待できます。

なるほど、かなり難しそうです。漢字の持つ意味をよく知っている人でなければ日本語の音声ソフトが使えない、ということですね。私自身、会報の原稿は必ず校正をしてもらっていますが、それでも誤字脱字が必ずあります。もう少し、簡単な音声ソフトができるとよいですが、高橋さんの原稿には間違いがまったくありませんでした。すごい語彙力をもつ教養の高い方、と改めて感動しました。(会報編集者：渥美資子)

ネパールのお正月は何回来るの？ 旧正月のロサル訪問記

ちなみにネパールの公式な正月は、だいたい4月になります。毎年、ヒンズーの占星術士が正月を決め、学校も役所もこの暦通りにスケジュールを立てています。しかし、主にモンゴル系の住民は、中国の旧暦によく似たロサルという正月を祝います。グルン・ロサル、シェルパ・ロサルと色々。その中でも、カトマンドゥ近郊に多く住むタマン族のロサルを見てきました。



写真左は上空にはチベットと同じ5色の旗が風になびいています。タマンは、シェルパよりやや色が黒いですが、我々と同じモンゴロイドです。でも、タマンに言わせると我々とシェルパはまるで違うと主張します。そして、タマンが行ったはじめての大規模旧正集会で、彼ら自身もこんなにタマンがいたのか、と驚いていました。



次の写真左は、タマン族の民族衣装。基本的にはチベットと同じで女性は、着物のような襟のブラウスに長めの前掛け。ジーンズ姿のあんちゃんもタマン。初夢はなんだったのかな。

写真下右は12支の絵です。

今年は、丑年なので、中央に牛が描かれています。タマンの人に言わせると正式には犬が無くて、山羊が入るといっていますが、実際にはどうなのでしょうかね。ここでは犬がちゃんと描かれているんだけど。



写真下左は鏡餅です。あれ？日本と違って餅の大小を2段に重ねるのではなく、油で揚げた大きな菓子がのっている。形状は、四角い菓子を2段に重ね、その上のほうには、なぜかカップから出したインスタントラーメンのようなものが乗り、最上部はなんでしょうねー、干からびたチャーシューのようにも見えますが。すみません、ちょっと、食欲が沸かない鏡餅です。はい、おしまい。

ジヨムソン・トレッキングの魅力

荒涼とした谷底に 今日もまた業風が吹きぬける 川原に残されたヤクの子らは 親を追って
泣くことも無く 神の怒りに力いっぱいこらえる いや、ここでは神そのものも堪えるほかな
いのかも知れない 時空世界を超越した 自然の流れの中で

都会の喧騒から離れ、生きとし生けるものを否定するような壮絶な荒地に立つと、細々と農業を
営み、りんごを育てている人々の姿が、なんともたくましく、また痛ましく目に映る。

初めてかの地を訪れたのは、12年前だったと思う。ポカラから飛行機でものの15分で、ジヨ
ムソン空港に到着。辺鄙な土地に着いたものと驚いた。ほほをなげる風がきりっと冷たく、防
風具など持ち合わせがなかったので、私はとりあえずヤク(ヒマラヤ牛)のごつい手袋を買った。
思えば海拔900mのポカラから、2734mのジヨムソンまで上がったのだ。手荷物もなく、
そのまま空港を出ると、目の前に写ったのは派手な綱飾りや鈴をつけた馬の群れだった。それは、
噂に聞くジヨムソンのタクシーだった。翌日は、馬でネパールのりんごの里マルファ近郊を見て
回った。阿弥陀如来のゴンパ、(チベット仏教の寺)巡礼に来る人々、それを遠くから見ている
子供たち。石堀にごつい薪を並べて歩く女たち。すべてが光に包まれ、映画をスローモーション
で見ているような気がした。

それから数年後に再びジヨムソンを訪れた。今度は、3798mのムクティナートを目指した。
荒涼とした黒い川原を歩き、豊富な水が湧き出る小さな村カクベニに着き1泊した。桃源郷と呼
ばれるこの町は、いまだに異教徒を拒むムスタン王国の入り口。入国許可書があまりに高いので、
入国しなかったが、そこはチベットよりもっとチベットの生活を送っている人々が住んでいる
ようだ。夜は寒い。身体の芯まで凍ってしまいそうで、ホカロンを重ねて貼った。あいにく私は
酒が飲めないの、内部から暖めることができない。翌朝、冷えた朝食をとってムクティナート
を目指した。ここは、チベット仏教のみならずヒンドゥー教の聖地でもあり、巡礼のインド人に
何度も遭遇した。おそらく彼らにはトレッキングの知識などないだろう。高山病でへたばった蒼
ざめた顔、素足で一歩でも前に進もうとする人々。とてもかける言葉がない。実は、私自身吐き
気をもよおしていたのだ。それでも、渾身の力をふるってムクティナート寺院に到着。神の力の
せいだろうか、カラリと元気になってしまった。ヒンドゥー教のムクティナラヤン寺院には10
8の蛇口から聖水がほとばしる「水の壁」があり、高山病を克服したインド人の男たちがふんど
しいっちょうで、水を浴びていた。罪業消滅の功德があるといわれる寺院を横目に、私はすでに
次はどこに遊びに行こうかなあ、と考えていた。(渥美 よりこ)



巡礼にでるグルン族の仏教徒
手には長い数珠をはなさない



ジヨムソンでの移動は
馬もおもしろい



マルファはりんごの里
ブランティーも有名

事務局便り 事務局担当 高梨憲司

(2009年度総会のご案内)

仲春の候、皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。何時もネパールの視覚障害者に対する支援活動にご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、NBSAの活動も間もなく新年度を迎えようとしています。そこで、今年度の活動に対する総括を行い、新年度における新たな活動計画を審議するため、下記の通り新年度総会を開催したいと存じます。今年度から事務局が千葉県に移動したため、総会の会場を千葉市にさせていただきました。遠隔地の方には誠に申し訳ございませんが、全国におられる会員が1年に1度だけお会いできる機会ですので、万障お繰り合わせの上、多くの方々にご出席いただければ、事務局としてこの上ない喜びです。有意義なイベントも企画してお待ちしていますので、是非、お出かけください。

期日：2009年4月18日(土) 13時30分～19時

会場：千葉市美浜文化ホール2階メインホール (〒261-0011 千葉市美浜区
真砂5-15-2 043-270-5619)

交通：JR京葉線検見川駅北口より徒歩5分、またはJR総武線新検見川駅南口4
番バス停より「千葉海浜交通バス」にて「美浜区役所(運賃160円)」下車

内容：総会(13時30分～14時30分)

- 1 2008年度活動報告、決算報告、並びに監査報告について
- 2 2009年度活動計画、並びに予算案について
- 3 会員増強と収入増のための施策について(イベント等)
- 4 その他

講演(15時～16時30分)

演題 「ネパールの視覚障害者と共に生きる(ネパールの視覚障害者を支える会の活動報告)」 講師：ネパールの視覚障害者を支える会会長 渥美資子氏

交流会(17時～19時)

会費 4000円(会場近くの居酒屋にて、ネパールを愛する人たち皆で交流を図ります)

参加申込：会員の皆様は総会の出欠について来る4月10日までにNBSA事務局の川崎まで。

メール・電話・郵便でお知らせください。

(会費納入のお願い)

NBSAの活動も決算期を迎えておりますが、会員の皆様で今年度の会費を未納の方が多数おられます。渥美会長の現地報告でもおわかりの通り、ネパールルピーが暴落して、活動に支障をきたしています。日本でも経済不況は他人事ではありませんが、一層厳しい状況に置かれている現地の視覚障害者とその関係者のために、少しでも私たちにできることを行っていきたくと思います。

このような時期に誠に恐縮とは存じますが、今年度会費の月内納入と、志をいただきたく、お願い申し上げます。入会をご希望される方は、事務局にご連絡ください。振込口座取扱票をお送りします。

Nepal Blind Support Association (NBSA)

P.O.Box:8974 PCN-111 Kathmandu, Nepal Tel:977-1-4425-709

E-mail: NBSA@mail.com.np / yorikonepal@hotmail.com

日本の事務局：

〒284-0005 千葉県四街道市四街道1-9-3 視覚障がい者総合支援センターちば内 NBSA

電話:043-424-2501 Fax: 043-424-2486 事務局担当者 高梨 憲司

NBSA HP : <http://NBSA.sakura.ne.jp/>

維持会費：個人会員年間6,000円 / 協力会員年間3,000円 / 法人会員年間15,000円

振込先：口座記号番号 00190-7-762775 (ネパールの視覚障害者を支える会)